

前期科目『総合演習Ⅱ』に始まり、バイオフィードバックという未だ開拓の余地の残る分野に対し、その可能性と、デザインので何が出来るかを考えてきた。

先の学習・まとめに加え、夏季休暇中に行ったアンケート調査の結果を踏まえて、バイオフィードバックへの新しいアイデアの制作を後期活動のメインとして、その成果物群を卒業制作とする。

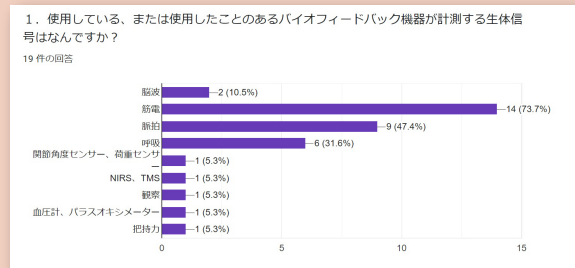
前期科目『総合演習Ⅱ』における学習とまとめ

+

夏季休暇中に行ったアンケート調査結果

『総合演習Ⅱ』で制作した、バイオフィードバックに関する考察とまとめの資料。

夏季休暇中に行った、各専門家への匿名アンケート調査の結果と得られた成果をまとめる。



新しいアイデアの提案・制作

上記を踏まえ、バイオフィードバック医療への新たな提案を制作する。

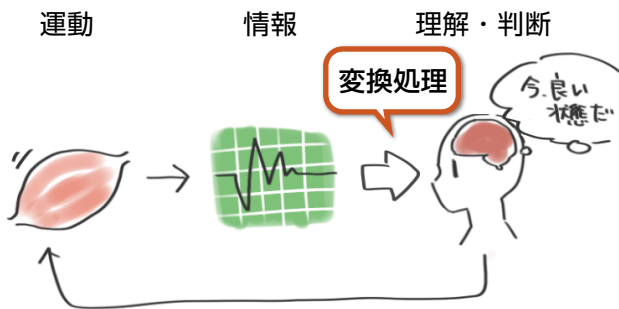
“より直感的なフィードバック”



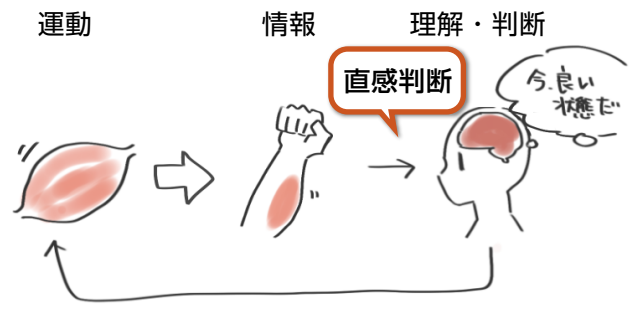
バイオフィードバック医療を行うにあたり、もっとも重要なことは『被医療者自身がフィードバックされる情報を正しく理解し、良い運動へと繋げること』であると気づきを得た。

そこで、従来のようなグラフや音、光など実際の筋活動とは縁遠い情報でなく、筋肉(を模した模型)が動いてみせることでより直感的な理解が可能になり、よりよい効果をもたらすのではないかと考えた。

<従来>



<新しい提案>



| 制作内容 |



MYO

筋電や傾きなど多チャンネルの情報を取得できる。装着が非常に簡便。

今回は筋電のデータを利用する。

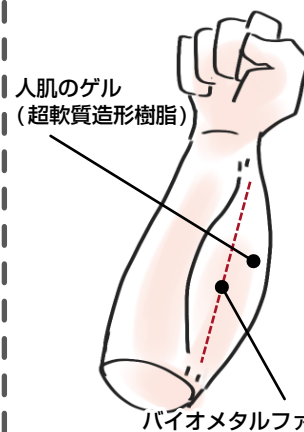


PC

Myo から送られたデータを処理、一時的にグラフで表示する。

先生によりすでに構築済みのシステムを拝借し、当装置用に変更を加える。

FB装置



腕を模した造形物。一部に人工筋肉(バイオメタルファイバー)を用い、通電によって伸び縮みする性質を利用して収縮・膨張を表現する。

<イメージ>

